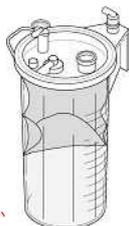


セレス吸引システム

再使用禁止

【警告】

- 右図のように吸引バッグを折りたたまれたまま、
或いは、十分に開かないまま吸引キャニスタ
(外筒)に装着しないこと。
**必ず、折りたたまれている吸引バッグを十分に
開いてから、吸引キャニスタに装着すること。**
[吸引をONにしても吸引バッグが吸引キャニスタ
の中で絡み合っていて膨らまず、
この状態で排液を吸引すると吸引キャニスタの
中で吸引バッグが破裂することがある]
- 必ず吸引をONの状態のまま(吸引源に接続したまま)、
吸引用配管(吸引用L字型コネクター、吸引管、
吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付)の取り外しと凝固剤の
注入、吸引バッグの密閉処理を行うこと。[排液が吸引バッグの
オーバーフローフィルターに接触すると自動的に吸引が停止
するが稀に排液が吸引バッグの蓋の裏側まで達し、吸引バッグが
排液で完全に満杯になる場合がある。吸引バッグを密閉処理
する前に、吸引源をOFF(吸引源から切断)にし、多目的ポートを
あけると吸引バッグが吸引キャニスタの中で大気圧に押されて
縮み、吸引した排液が吸引口や多目的ポートから逆流する
可能性がある]



【禁忌・禁止】

- 吸引バッグ、吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付、
病理標本採取用カップ、微量用ボトルは再使用禁止。
- 吸引キャニスタはアルコール系の有機溶媒で清拭しないこと。

【形状・構造及び原理等】

1. 概要

本品は単回使用の吸引バッグと再使用可能な吸引キャニスタ(外筒)を基本構成単位とする。吸引バッグを吸引キャニスタにセットして吸引バッグの蓋を吸引キャニスタに詰め込み、吸引源からの排気管及び患者側からの吸引管を吸引バッグ・吸引キャニスタに接続すると、患者等から吸引された排液(血液、体液、外科手術で使用される洗浄液等)を回収する医療用吸引器の吸引容器として機能する。吸引終了後は、吸引された排液が密封された吸引バッグのみを廃棄(通常は焼却処分)し、キャニスタは再使用することが出来る。尚、吸引源からの排気管及び患者に接触する吸引管は本品に含まれない。

又、【形状・構造及び原理等】2. 構成 (2)から(12)の構成部品を基本構成単位である吸引バッグ・キャニスタ(外筒)と共に使用することが出来る。

2. 構成

(1) セレス吸引システム 吸引バッグと吸引キャニスタ(外筒)

セレス吸引システム 吸引バッグ

品名	型式	吸引容量
セレス吸引システム	吸引バッグ・1000mL	1000mL
セレス吸引システム	吸引バッグ・2000mL	2000mL
セレス吸引システム	吸引バッグ・3000mL	3000mL

セレス吸引システム 吸引キャニスタ(外筒)*

品名	型式	吸引容量
セレス吸引システム	吸引キャニスタ・1000mL L字型コネクター付	1000mL
セレス吸引システム	吸引キャニスタ・2000mL L字型コネクター付	2000mL
セレス吸引システム	吸引キャニスタ・3000mL L字型コネクター付	3000mL
セレス吸引システム	吸引キャニスタ・1000mL ブルーL字型コネクター付	1000mL
セレス吸引システム	吸引キャニスタ・2000mL ブルーL字型コネクター付	2000mL

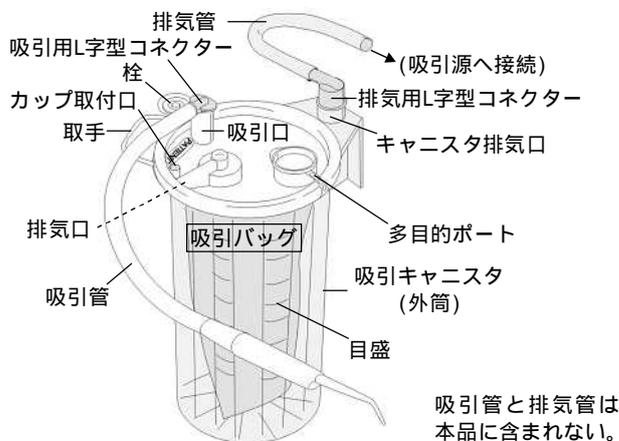
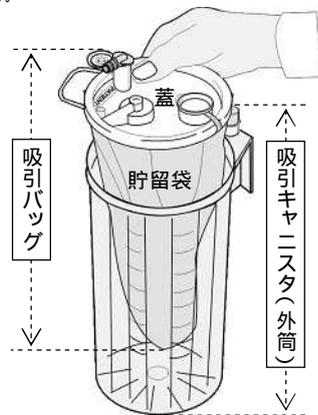
吸引バッグは蓋と貯留袋から成り、蓋と貯留袋は一体化されている。吸引容量により1000mL・2000mL・3000mLの3種類が用意されている。蓋の表面には吸引口と多目的ポート(栓付き)が、蓋の側面には排気口が開いている。吸引口には吸引管を接続するために吸引用L字型コネクターが予め挿入されている。多目的ポートは吸引バッグを接続する際の吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付のコネクター挿入口となり、又、

排液凝固剤等の薬剤を注入する注入口としても機能する。又、蓋には排液吸引終了後に吸引口を密閉するための栓と吸引バッグを吸引キャニスタから取り出すための取手、測定用カップを取り付けるためのカップ取付口が備え付けられている。排気口には、排気中に含まれるエアロゾルを吸収し、又、吸引源側への排液の流出を防止するオーバーフローフィルターが内蔵されている。吸引バッグは単回使用である。

吸引キャニスタ(外筒)は、装着する吸引バッグの吸引容量により1000mL・2000mL・3000mLの3種類が用意されていて(ブルーは1000mL、2000mL)、同じ吸引容量の吸引バッグを吸引キャニスタに装着する。無色透明のキャニスタの他に青色に着色した有透明のキャニスタもある。吸引キャニスタの上部には、吸引バッグ内部の空気と吸引バッグと吸引キャニスタの間の空気を吸引源側へ排出するために排気口が開いていて、排気口には吸引源からの排気管を接続するために排気用L字型コネクターが予め挿入されている。吸引キャニスタの側面には吸引した排液量の目安を知るための目盛りが付いている。キャニスタは再使用可能である。*

吸引バッグをキャニスタに装着し吸引バッグの蓋を吸引キャニスタに詰め込み吸引源に接続すると、吸引バッグの内部が陰圧となり、吸引が可能になる。

吸引バッグ・吸引キャニスタを各1個使用するが(基本システム)、複数の吸引バッグ・吸引キャニスタを連結して使用することも可能である(連結システム)。



(2) 0151002101 セレス吸引システム
(型式: 連結チューブ・吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付)

本品は複数の吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)を使用する連結システムにおいて複数の吸引バッグを連結するために使用する。連結用チューブと連結用コネクターから成る。本品は単回使用である。



(3) 0151004201 セレス吸引システム
(型式:排気用コネクター・L字型コネクター)

本品は吸引キャニスタ(外筒)の標準構成部品であり、吸引バッグと吸引キャニスタを吸引源に接続するために使用する。本品は再使用可能である。



(4) 0151002201 セレス吸引システム
(型式:排気用チューブ・キャニスタ連結T字型コネクター・チューブ付)

本品は複数の吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)を使用する連結システムにおいて複数の吸引キャニスタを連結するために使用する。本品は再使用可能である。



(5) 0151004101 セレス吸引システム
(型式:排気用バルブ・ON-OFFバルブ)

本品は吸引バッグ・キャニスタ(外筒)を各1個使用する基本システムにおいて吸引のON/OFF操作を行うために使用する。本品は本体とシャフトから成り、シャフトが本体に組み込まれている。又、シャフトの上には数字の"0"と"1"が記されている。本品のシャフトを回して数字の"1"をチューブ接続口の方向に合わせれば吸引がONとなり、数字の"0"をチューブ接続口の方向に合わせれば吸引がOFFとなる。本品は再使用可能である。



(6) 0151004001 セレス吸引システム
(型式:排気用バルブ・三方バルブ)

本品は複数の吸引バッグ・キャニスタ(外筒)を使用する連結システムにおいて吸引のON/OFF操作を行うために使用する。本品は本体とシャフトから成り、シャフトが本体に組み込まれている。本品のシャフトを回して所定の位置にセットすれば、連結システム全体の吸引のON/OFF操作を行うことができる。本品は再使用可能である。



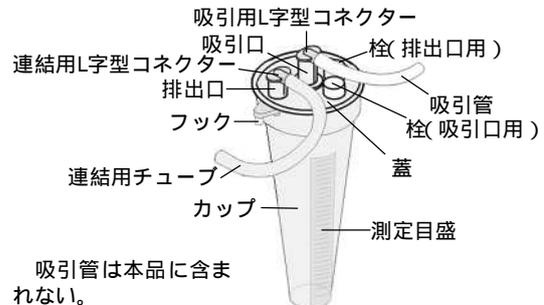
(7) 0151003101 セレス吸引システム
(型式:病理標本採取用カップ・300mL)

本品は排液と一緒に吸引された組織片等の病理標本を捕捉・採取するために使用する。本品はカップと蓋で構成され、蓋をカップから取り出すことができる。カップにはバスケットが内蔵されている。蓋の表面には吸引口が、カップの底には排出口が開いている。吸引口には吸引管を接続するために吸引用L字型コネクターが予め挿入されている。又、蓋には吸引終了後に吸引口及び排出口を密閉するために栓が備え付けられている。尚、吸引管は本製品に含まれない。吸引された病理標本がカップの中のバスケットに捕捉され、使用後にバスケットをカップから取り出して病理標本を採取することができる。本品は単回使用である。



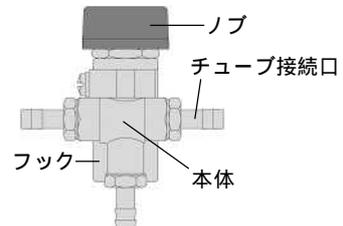
(8) 0151003201 セレス吸引システム
(型式:微量用ボトル・400mL)

本品は280mL以下の吸引された排液量を測定するために使用する。本品はカップと蓋から成り、蓋をカップから取り出すことができる。カップの側面には排液量を測定するための目盛が、0から50mLの間は5mL毎に、50から280mLの間は10mL毎に付いている。蓋の表面には吸引口と排出口が開いている。吸引口には吸引管を接続するために吸引用L字型コネクターが予め挿入されている。排出口には吸引バッグの吸引口に接続するために連結用L字型コネクターが予め挿入されていて、連結用L字型コネクターには連結用チューブが予め接続されている。又、蓋には吸引終了後に吸引口及び排出口を密閉するために栓が備え付けられている。尚、吸引管は本品に含まれない。本品のカップのフックを吸引バッグの蓋のカップ取付口に挿入することによりカップを吸引バッグに固定し、本品の連結用チューブを吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクターに接続し、本品の吸引用L字型コネクターに吸引管を接続して使用する。吸引した排液量をカップの目盛で読み取り、測定後はそのままカップを通じて通常の排液の吸引を行うことができる。本品は単回使用である。



(9) 0151003900 セレス吸引システム
(型式:吸引シフトバルブ)

本品は2個の吸引系統(基本システム、又は、連結システム)の吸引のON/OFFを切り替えるバルブである。本品は本体とノブ、フックから成り、本体の下部に1個のチューブ接続口、左右の側面に2個のチューブ接続口を有する。ノブの上には矢印が記されている。又、フックによって、本品をトローリー・ツール6連結やトローリー・ショート3連結のブラケット、ホルダー6連結のブラケットに掛けることができる。下部のチューブ接続口に吸引源からの排気管を接続し、左右のチューブ接続口と各吸引系統のキャニスタ(外筒)排気口に挿入されているコネクター(L字型コネクター、キャニスタ連結T字型コネクター・チューブ付、ON/OFFバルブ、三方バルブ)のチューブ接続口の間をチューブで接続する。(チューブは本品に含まれない。内径6mm×外径12mmのシリコンチューブを推奨する。)ノブを回して矢印を左右どちらかのチューブ接続口の方向に合わせれば、そのチューブ接続口に接続されている吸引系統は吸引がONとなり、片方の系統は吸引がOFFとなる。又、ノブを回して矢印を左右のチューブ接続口と直角になる方向にあわせれば、両系統ともに吸引がOFFとなる。本品は再使用可能である。



(10) 0151004300 セレス吸引システム
(型式:トローリー・ツール6連結)

本品は吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを取り付ける架台である。ベースと支柱、ホルダー6連結から成る。支柱に取り付けられたホルダー6連結のブラケットに最大6個の吸引キャニスタ(外筒)、又は、吸引シフトバルブを掛けることができる。ホルダー6連結付属の結束バンドにより、支柱の任意の高さに取り付けることができる。尚、支柱にはホルダー6連結を2個まで取り付けることができる。支柱上部にはブラケット2個が取り付けられていて、吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛けることができる。又、支柱の直径に適した取付用金具(本品には含まれない)を用いれば、他の機器を支柱に取り付けることができる。ベースにはキャスター5個(内2個はブレーキ付き)が取り付けられていて、スタンドを移動することができる。本品は再使用可能である。

(11) 0151004400 セレス吸引システム
(型式: トローリー・ショート 3 連結)

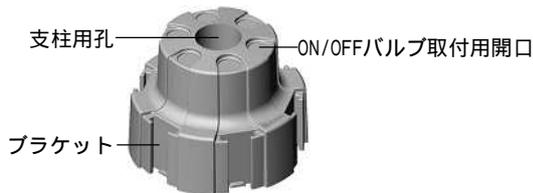
本品は吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを取り付ける架台である。ベースと支柱から成る。支柱上部にはブラケット3個が取り付けられていて、吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛けることができる。又、支柱の直径に適した取付用金具(本品には含まれない)を用いれば、他の機器を支柱に取り付けることができる。ベースにはキャスター5個が取り付けられていて、スタンドを移動することができる。本品は再使用可能である。



左: トール 6連結品番(0151004300)
右: ショート 3連結品番(0151004400)

(12) 0151003800 セレス吸引システム
(型式:ホルダー・6 連結)

本品は吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛けるホルダーである。中心部には支柱を通すための孔が貫通して、トローリー トール 6 連結や直径 40mm の支柱を有する架台に取り付けることができる。本品のブラケットに最大 6 個の吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛けることができる。本品は再使用可能である。



【使用目的、効能又は効果】

単回使用の吸引バッグと再使用可能な吸引キャニスタ(外筒)を基本構成単位とする。吸引バッグを吸引キャニスタにセットして吸引バッグの蓋を吸引キャニスタに詰め込み、吸引源からの排気管及び患者側からの吸引管を吸引バッグ・吸引キャニスタに接続すれば、患者等から吸引された排液(血液、体液、外科手術で使用される洗浄液等)を回収する医療用吸引器の吸引容器として使用する。

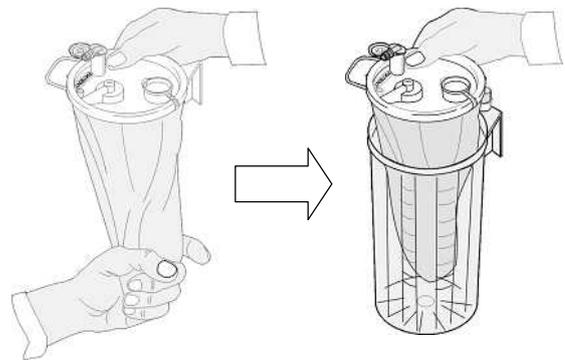
【品目仕様等】

項目	仕様
シール性 テスト	-40kPa で、10 秒間陰圧を掛け、維持した際に、吸引バッグ内の圧力低下が以下の通りであること。 吸引バッグ(1000mL): 1 分間に 14kPa 吸引バッグ(2000mL): 2 分間に 14kPa 吸引バッグ(3000mL): 3 分間に 14kPa

【操作方法又は使用方法等】

1. 基本システム: 吸引バッグと吸引キャニスタ(外筒)

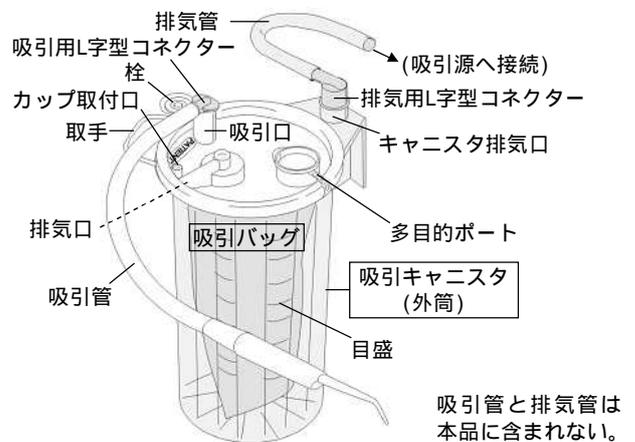
- (1) 吸引キャニスタを水平な面にセットする。
- (2) 吸引源からの排気管を吸引キャニスタ排気口に挿入されている排気用L字型コネクタに接続する。
- (3) 折りたたまれている吸引バッグを十分に開いてから、吸引キャニスタに装着する。



- (4) 吸引を ON にして、吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用 L 字型コネクタの先を指で塞ぎ、同時に、吸引バッグの蓋の中央部を手で軽く押すと、吸引バッグと吸引キャニスタの間が陰圧になり、吸引バッグの蓋が吸引キャニスタにしっかりと詰め込まれる。或いは、吸引が OFF のまま、蓋を手で押して吸引バッグの蓋を吸引キャニスタにしっかりと詰め込む。



- (5) 吸引管を吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用 L 字型コネクタに接続する。
- (6) 吸引を ON にして、吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっばいに膨らむまで空気を吸引する。
- (7) 吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっばいに膨らんだことを確認したら、排液の吸引を開始する。
- (8) 排液が吸引キャニスタの目盛の MAX ラインまで達したら、排液の吸引を直ちに中止する。
- (9) 吸引が ON の状態のまま、吸引バッグの吸引口から吸引用 L 字型コネクタ・吸引管を取り外し、バッグの蓋に備え付けの栓で吸引口を密閉し、吸引バッグの多目的ポートを開け凝固剤を注入してポートを閉じる。
- (10) 吸引を OFF にする。
- (11) 吸引バッグの蓋の取手をつかみ吸引バッグを吸引キャニスタから静かに取り出す。
- (12) 吸引バッグ(吸引用 L 字型コネクタを含む)は単回使用である。使用後は吸引バッグと吸引管を廃棄処分する。
- (13) 吸引キャニスタ(排気用 L 字型コネクタを含む)は再使用可能である。



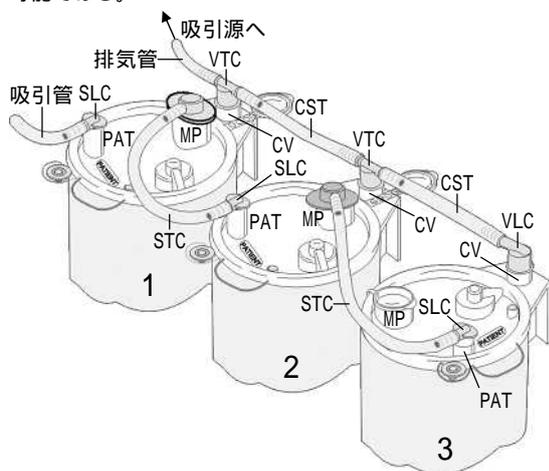
2. 連結システム: 吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)の連結

吸引バッグ連結チューブ・青コネクタ付、キャニスタ連結 T 字型コネクタ・チューブ付を用いて、複数の吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)を連結し、連続して大容量の排液を吸引することができる。

- (1) 最後尾のキャニスタ(3)の排気口(CV)にのみ吸引キャニスタの標準構成部品である排気用 L 字型コネクタ(VLC)の吸引

キャニスタ接続口を挿入し、それ以外の吸引キャニスタの排気口 (CV) にはキャニスタ連結T字型コネクタ・チューブ付 (VTC) のキャニスタ接続口を挿入して、各コネクタのチューブ接続口の間をキャニスタ連結用チューブ (CST) で接続する。

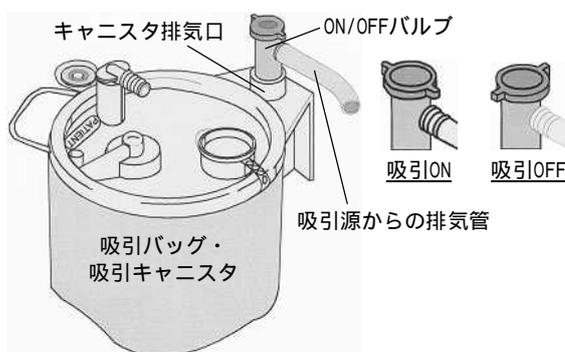
- (2) 吸引源からの排気管を先頭の吸引キャニスタ(1)の排気口 (CV) 挿入されているキャニスタ連結T字型コネクタ・チューブ付 (VTC) のチューブ接続口に接続する。
- (3) 折りたたまれている吸引バッグを十分に開いてから各吸引キャニスタに装着する。
- (4) 最後尾以外の吸引バッグの多目的ポート (MP) を開けて、吸引バッグ連結チューブ・青コネクタ付 (STC) のコネクタをポートに挿し込み、チューブを隣り合う次の吸引バッグの吸引口 (PAT) に挿入されている吸引用L字型コネクタ (SLC) に接続し、吸引バッグを接続する。(最後尾の吸引バッグ(3)の多目的ポート (MP) は閉じたままである。)
- (5) 吸引管を先頭の吸引バッグ(1)の吸引口 (PAT) に挿入されている吸引用L字型コネクタ (SLC) に接続する。
- (6) 吸引をONにして、全ての吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっばいに膨らむまで空気を吸引する。全ての吸引バッグが吸引キャニスタの中でいっばいに膨らんだことを確認したら、排液の吸引を開始する。
- (7) 排液が最後尾の吸引キャニスタ(3)の目盛のMAXラインまで達したら、排液の吸引を直ちに中止する。
- (8) 吸引がONの状態のまま、吸引バッグから吸引用L字型コネクタ (SLC) ・吸引管と吸引バッグ連結チューブ・青コネクタ付 (STC) を取り外し、バッグの蓋に備え付けの栓で吸引口 (PAT) を密閉し、多目的ポート (MP) から凝固剤を注入してポートを閉じる。
- (9) 吸引をOFFにして、吸引バッグの取手をつかみ吸引バッグをキャニスタから静かに取り出す。
- (10) 吸引バッグ連結チューブ・青コネクタ付 (STC) は単回使用である。使用後は、吸引バッグ、吸引管とともに廃棄処分する。
- (11) 吸引キャニスタ (排気用L字型コネクタ (VLC) を含む)、キャニスタ連結T字型コネクタ・チューブ付 (VTC) は再使用可能である。



3. ON/OFFバルブ

吸引バッグ・吸引キャニスタ (外筒) を各 1 個使用する基本システムにおいて、ON/OFFバルブを用いて、吸引のON/OFF操作を行うことができる。

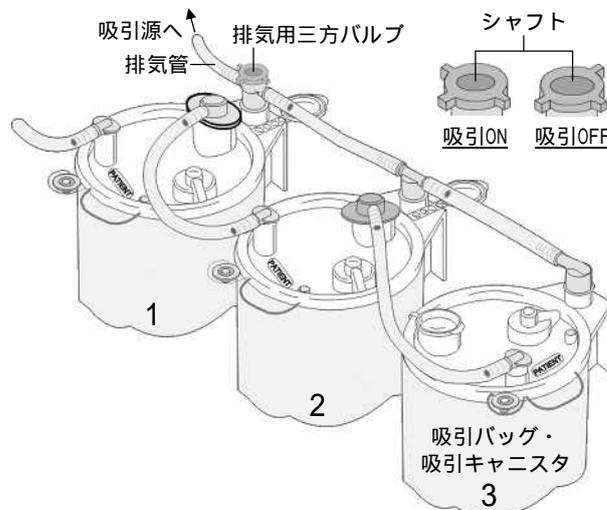
- (1) 吸引キャニスタの排気口から排気用L字型コネクタを取り外し、代わりにON/OFFバルブのキャニスタ接続口をキャニスタの排気口に挿入する。
- (2) 吸引源からの排気管をON/OFFバルブのチューブ接続口に接続する。
- (3) シャフトを回してシャフト上に記された数字の "1" をチューブ接続口の方向に合わせれば吸引がONとなり、数字の "0" をチューブ接続口の方向に合わせれば吸引がOFFとなる。
- (4) 本品は再使用可能である。



4. 排気用三方バルブ

複数の吸引バッグ・吸引キャニスタ (外筒) を使用する連結システムにおいて、排気用三方バルブを用いて、連結システム全体の吸引のON/OFF操作を行うことができる。

- (1) 排気用三方バルブの吸引キャニスタ接続口を先頭の吸引キャニスタ(1)の排気口に挿入する。
- (2) 吸引源からの排気管を排気用三方バルブの片方のチューブ接続口に接続する。
- (3) 吸引バッグ・吸引キャニスタを接続する。(連結方法の詳細は【操作方法又は使用方法等】2.連結システム：吸引バッグ・吸引キャニスタ (外筒) の連結を参照)
- (4) 排気用三方バルブのシャフトを回し吸引をON又はOFFの位置にセットして、吸引のON/OFF操作を行う。
- (5) 本品は再使用可能である。



5. 病理標本採取用カップ

病理標本採取用カップを用いて、排液と一緒に吸引された骨片や組織片等の病理標本を捕捉・採取することができる。

- (1) 吸引バッグの吸引口から吸引用L字型コネクタを取り外し、代わりにカップの底の排出口を吸引バッグの吸引口に取り付ける。
- (2) カップの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクタに吸引管を接続する。
- (3) 病理標本を吸引したら、カップの吸引口から吸引用L字型コネクタ・吸引管を取り外し、カップの蓋に備え付けの栓 (吸引口用) で吸引口を密閉する。
- (4) カップを吸引バッグから取り外して、逆さにする。
- (5) 必要に応じてホルマリン等の固定液をカップの底の排出口から注入し、カップの蓋に備え付けの栓 (排出口用) で排出口を密閉する。
- (6) カップの蓋を開けて中のバスケットを取り出し、バスケットに捕捉されている標本を採取する。
- (7) 本品は単回使用である。使用後は、吸引バッグ、吸引管とともに廃棄処分する。



6. 微量用ボトル

測定用カップを用いて、280mL 以下の吸引された排液量を測定することが出来る。

- (1) カップのフックを吸引バッグの蓋のカップ取付口に挿入して、カップを吸引バッグに固定する。
- (2) カップの連結用L字型コネクターに予め接続されている連結用チューブの片側を吸引バッグの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクターに接続し、カップの排出口と吸引バッグの吸引口を連結する。
- (3) カップの吸引口に挿入されている吸引用L字型コネクターに吸引管を接続する。
- (4) 排液の吸引を開始する。
- (5) 吸引した排液量をカップの測定目盛で読み取る。
- (6) 排液量測定後は、そのままカップを通じて通常の排液の吸引を行うことが出来る。
- (7) 通常の吸引の途中で再び排液量の測定を行う場合は、カップの排出口と吸引バッグの吸引口を連結したままカップを吸引バッグから取り外して持ち上げてからカップを傾け、カップ内部の排液を吸引バッグに移動させてカップを空にする。
- (8) 使用後は、カップ内部の排液を吸引バッグに移動させてカップを空にしてから、カップから吸引用L字型コネクター・吸引管と連結用L字型コネクター・チューブを取り外し、カップの蓋に備え付けの栓で吸引口と排出口を密閉する。
- (9) カップを吸引バッグから取り外す。
- (10) 本品は単回使用である。使用後は、吸引バッグ、吸引管とともに廃棄処分する。



7. 吸引シフトバルブ

吸引シフトバルブを用いて、2 個の吸引系統(基本システム、又は、連結システム)の吸引の ON/OFF を切り替えることが出来る。

- (1) 下部のチューブ接続口に吸引源からの排気管を接続し、左右のチューブ接続口と各吸引系統の吸引キャニスタ(外筒)の排気口に挿入されているコネクターのチューブ接続口の間をチューブで接続する。(チューブは本品に含まれない。内径6mm x 外径12mmのシリコンチューブを推奨する。)
- (2) ノブを回してノブ上に記された矢印を左右どちらかのチューブ接続口の方向に合わせればそのチューブ接続口に接続されている吸引系統は吸引がONとなり、片方の系統は吸引がOFFとなる。
- (3) ノブを回して矢印を左右のチューブ接続口と直角になる方向にあわせれば、両系統ともに吸引がOFFとなる。
- (4) 本品は再使用可能である。



8. トローリー・ツール 6 連結

本品は吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを取り付ける架台である。

- (1) ホルダー 6 連結中心部の孔に支柱を通してから、支柱をベース中心部の孔に詰め込む。
- (2) ホルダー 6 連結を支柱上の希望の高さまで持ち上げ、付属の結束バンドにより、ホルダー 6 連結を支柱上に固定する。
- (3) 本品を水平な床面に置き、ホルダー 6 連結のブラケットや支柱上部のブラケットに吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛ける。
- (4) 本品は再使用可能である。

9. トローリー・ショート 3 連結

本品は吸引バッグ・吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを取り付ける架台である。

- (1) 支柱をベース中心部の孔に詰め込む。
- (2) 本品を水平な床面に置き、支柱上部のブラケット吸引にキャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛ける。
- (3) 本品は再使用可能である。

10. ホルダー 6 連結

本品は吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛けるホルダーである。トローリー・ツール 6 連結や直径 40mm の支柱を有する架台に取り付けることが出来る。

- (1) 本品中心部の孔に支柱を通してから、支柱をベースに取り付ける。
- (2) 本品を支柱の希望の高さまで持ち上げ、結束バンドにより、ホルダー 6 連結を支柱上に固定する。
- (3) 本品を取り付けた架台を水平な床面に置き、本品のブラケットに吸引キャニスタ(外筒)や吸引シフトバルブを掛ける。
- (4) 本品は再使用可能である。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

1. 本製品は専門の教育を受けた者のみが使用すること。
2. 本製品を使用する前には、必ず表示事項及び取扱説明書を熟読し、その内容を熟知すること。
3. 使用する流量及び圧力に関しては、術式、対象部位、使用者の経験及び技法を勘案して行うこと。
4. 本製品を設置使用するときには傾斜、振動、衝撃など考慮すること。
5. 本製品を使用する前には、必ず、製品の汚損、破損、破れ、ヒビ等の異常がないことを確認して使用すること[排液の漏れや飛散による周囲環境汚染の恐れがある]
6. 使用中に異常を感じた場合は、使用を中止すること。[排液の漏れや飛散による周囲環境汚染の恐れがある]
7. アルコール等の有機溶媒を吸引しないこと。[オーバーフローフィルターからの排液の漏れや、凝固不良の原因となる]
8. 使用方法によっては吸引源側へ排液が流入する恐れがあるので疎水性フィルターまたはトラップ等、流入を防ぐ手段を講ずること。*
9. 吸引バッグにはオーバーフローフィルター(吸引源側への排液の流出を防止する過剰留防止機構)が搭載されているが、余裕をもった連結ボトル方式で使用する。
10. 吸引バッグのオーバーフローフィルターが作動して、吸引が停止した場合には、そのまま放置せず速やかに吸引バッグを適切に交換し処理すること。[継続的な高陰圧の負荷により破損の恐れがある]
11. 必ず吸引をONの状態のまま(吸引源に接続したまま)、吸引用配管(吸引用L字型コネクター、吸引管、吸引バッグ連結チューブ・青コネクター付)の取り外しと凝固剤の注入、吸引バッグの密閉処理を行うこと。[排液が吸引バッグのオーバーフローフィルターに接触すると自動的に吸引が停止するが、稀に排液が吸引バッグの蓋の裏側まで達し、吸引バッグが排液で完全に満杯になる場合がある。この様な場合は、吸引をOFF(吸引源から切断)にし、多目的ポートを開けると吸引バッグが吸引キャニスタの中で大気圧に押されて縮み、吸引した排液が吸引口や多目的ポートから逆流する]
12. 使用後は適切な処理を行い吸引バッグの多目的ポート及び吸引用L字型コネクター接続部を栓で密閉すること。

13. 使用後、適切に処理され密閉された吸引バッグの持ち運びには取手を持つこと。
14. 使用後は「感染性廃棄物処理マニュアル」(環境省：環廃産発第 040316001 号)に従って処理すること。
15. 本製品を取り扱う場合には、ゴム手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を必ず着用すること。また、周囲環境の汚染に注意すること。[排液が飛散する恐れがある。]
16. 本製品を採血用吸引器として絶対に使用しないこと。
17. 本システムを使用する場合、一つの吸引口を単独で使用するこ
と[二つ以上のシステムを並列で利用する場合には圧力の低下を
生じる場合がある]
18. 吸引チューブを直接患者には使用せず、必ず適切な先端器具を
接続して使用すること。
19. 本製品を使用する場合は、各接続部分に指定されたサイズ以外
のチューブ、コネクターを使用しないこと。[製品の破損や吸
引不良等の恐れがある]
20. 消耗品は弊社純正の消耗品を使用すること。
21. 本製品は勝手に分解、改造は絶対にしないこと。
22. 吸引キャニスタはアルコール系の有機溶媒で清拭しないこと。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

<貯蔵・保管方法>

1. 湿気やほこり、塵のある場所を避け、常温で保管すること。
2. 包装(箱、袋)から取り出した状態で保管しないこと。

<使用期限>

トローリー以外のキャニスタ等、再使用可能な製品 3年

<耐用期間>

トローリー 5年

【保守・点検に係る事項】

再使用可能な吸引キャニスタ(外筒)及び排気用L字型コネクターを滅菌する場合には、エチレンオキサイドガス滅菌(E.O.G滅菌)以外
は行わないこと。洗浄・滅菌する場合は、コネクターを吸引キャニスタから取り外すこと。

【包装】*

品番	品名	型式名	包装単位
0151000101	セレス 吸引システム	吸引バッグ・1000mL	36 個/箱
0151000201		吸引バッグ・2000mL	24 個/箱
0151000301		吸引バッグ・3000mL	24 個/箱
0151001100		吸引キャニスタ・1000mL L字型コネクター付	1 個/袋
0151001200		吸引キャニスタ・2000mL L字型コネクター付	1 個/袋
0151001300		吸引キャニスタ・3000mL L字型コネクター付	1 個/袋
0151001400		吸引キャニスタ・1000mL ブルー L字型コネクター付	1 個/袋
0151001500		吸引キャニスタ・2000mL ブルー L字型コネクター付	1 個/袋
0151002101		連結チューブ・吸引バッグ連結 チューブ・青コネクター付	25 個/袋
0151004201		排気用コネクター ・L字型コネクター	20 個/袋
0151002201		排気用チューブ ・キャニスタ連結 T字型コネクター・チューブ付	10 個/袋
0151003101		病理標本採取用カップ・300mL	18 個/箱
0151003201		微量用ボトル・400mL	12 個/箱
0151003900		吸引シフトバルブ	1 個/袋
0151004001		排気用バルブ・三方バルブ	10 個/袋
0151004101		排気用バルブ・ON-OFF バルブ	10 個/袋
0151004300		トローリー・ツール 6 連結	1 台/箱
0151004400		トローリー・ショート 3 連結	1 台/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者：
泉工医科工業株式会社
埼玉県 春日部市 浜川戸 2-11-1

問い合わせ先
本社商品部
TEL 03-3812-3254 FAX 03-3815-7011

製造業者：
セレス株式会社 (SERRES Oy) (Finland)
Kurikantie 287, 61850 Kauhajoki as, Finland